

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	小城市立砥川小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の分析と家庭学習の充実を図り、主体的な学びを育む指導法の改善に向けて取り組んでいく。 学校での生活と学習の基盤となる落ち着いた、誰もが安心できる学級づくりに向けて、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実に努めていく。 学校教育の充実には、教職員が心身共に健康で児童に向き合うことが必要である。そのために、さらに業務の効率化や簡素化等から働き方改革を推進していく。
------------------	---

2 学校教育目標	夢と志をもち、自ら学び、共によりよく生きようとする砥川っ子の育成 「勤儉力行」 ～たくましく しなやかに～
----------	--

3 本年度の重点目標	『今日が楽しく、明日が待ち遠しく思える学校』 ※全体成果指標「学校が楽しい」と思う児童80%以上 「一心一徳」「異体同心」で <input type="checkbox"/> 魅力的で笑顔に満ちた児童を育てる <input type="checkbox"/> 魅力的で活気に満ちた教職員になる <input type="checkbox"/> 魅力的で家庭や地域に愛される学校になる
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○学力向上対策評価シートを活かしたPDCAサイクルの構築を図る。	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等で取組の推進を図る。			
○意欲を育む指導と評価の充実を図る。	○学習に対する意欲面を問う質問に肯定的な回答をする児童80%以上。 ○校内研究の効果について肯定的な回答をする職員80%以上。	・校内研究において、「話し合い活動」と「合理的配慮(ICT機器の有効活用を含む)」の提供を通して主体的に活動し、表現しようとする児童の育成を図る。								・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、思いやりのある行動や言動ができていると答える児童が85%以上	・教育活動全体を通して、自分のよさや可能性を認識させるとともに、あらゆる他者を尊重する態度を育てる。							・特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートにおいて、いじめ防止対策等のための取組について組織的な対応ができていると回答した教員80%以上	・定期的な心のアンケートや法によるいじめの定義の職員への徹底を図り、児童が安心・安全な学校生活が送れるようにする。							・生徒指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・出番、役割、承認のサイクルを意識した取り組みを進め、発達支持的生徒指導の浸透と道徳教育、人権・同和教育を核とした学習指導を実施する。							・特別活動部
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1日で30分以上の児童週が80%以上	・スポーツチャレンジへの積極的な取り組みを通して個や全体の体力を高めるとともに、運動の楽しさ、集う楽しさを味わわせる。							・健康安全部
	②「望ましい生活習慣の育成」	②学校評価アンケートにおいて、「早寝・早起きができる」「朝ご飯を食べている」と答える児童が80%以上	・家庭と協力し、「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みの徹底を図る。							
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に良い食事をしている」に肯定的な回答をする児童90%以上	・給食センターの栄養教諭や養護教諭と連携し、食の大切さや世界の状況を理解させる指導を行う。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○平均40時間以内を目安とする。	・行事や会議を効率的に効果的に削減、凝縮し、子どもと向き合う時間を確保する。 ・家庭・地域に対し、教員の本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。 ・「ON/OFF」の切り替えができ活気に満ちた状態で働く姿を児童に見せるよう、メリハリをつけた業務遂行を行う魅力ある教員となる。							・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実と拡散	○特別支援に関する専門性が向上したという問いに肯定的な回答をする教員80%以上。	・個別の指導計画及び特別な教育課程の詳細な立案により、支援を要する児童への個に応じた対応を徹底する。 ・全職員で全児童を育てるために、児童の情報共有と指導の方向性の確認を行う。 ・職員研修の実施により、インクルーシブ教育の視点で通常学級でも個別の支援を行える教員となる。							・特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○地域との連携	○地域との連携による互恵性のある教育活動の創造	○「地域の方と一緒に活動は楽しい」に肯定的な回答をする児童80%以上。 ○「地域の教育的資源や人材を活用した」に肯定的な回答をする職員80%以上	・地域連携室との連携により、学校を開き、地域の力を活用して児童が生き生きと学習できる環境を構築する。 ・児童が地域の方に感謝する機会をその都度設け、地域も活性化する方途を模索			

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--